広報かじき

昭和57年12月

町制施行70周年記念特集号

発行　加治木町
編集　総務課

湯湾岳より市街地を望む

盛大に祝う 町制施行七十周年

って大きく躍進

町制施行七十周年を祝う記念式典は十月三十日、加治木中学校屋内運動場で、本県選出の国会議員をはじめとする町内外の来賓多数が臨席のもと盛大に開催されました。

午前十時向江助役が開式を宣言、国歌斉唱、物故者に対して黙とうをささげた後、東町長の式辞、下猶町議会議長のあいさつに続いて長年町勢の発展に貢献したかたがた三百三十三人に感謝状や表彰状が贈呈されました。

来賓の県知事(代理須賀龍郎県総務部長)、県議会議長(代理溝口宏二県議会議員)、国会議員代表(村山喜一、小里貞利、井上吉夫、金丸三郎)、姶良伊佐郡町長会会長(代理霧島町長川野正雄)、姶良伊佐郡議長会会長(姶良町議会議長森川重男)らが「町制施行七十周年を祝福し、めでたく表彰されたかたがたと町民をたたえるとともに、加治木町が今後もますます発展することを祈念します」と祝辞を述べました。

十二時三十分から行われた祝賀会では、十年ぶりに復活した勇壮な小山田の棒踊りをはじめ、西別府の吉左右踊り、太鼓踊り、木田の馬踊りなどの郷土芸能が披露され祝賀会に花を添えました。

式辞を述べる東町長

町長式辞

加治木町町制施行七十周年記念式典を挙行する栄誉を二万二千有余の町民各位とともに分かち合えることは、私のもっとも喜びとするところであります。

輝かしい加治木町を夢みつつ奮闘された先輩諸氏にまず深甚の敬意を表します。

さて、本日は公私共に御多忙中にもかかわらず、県知事、県議会議長、本県選出の国会議員の諸先生をはじめ、多数のご臨席を賜り錦上花を添えていただき厚くお礼申し上げます。

ご案内のとおり我が加治木町は明治四十五年六月一日県下初の町制を施行し、初代町長石神安光氏より十七代、町議会議長は初代佐藤徳三氏より十九代を数えるにいたりました。

町制七十年の過程にはいろいろな苦難と社会情勢に大きな変化がありました。

特に昭和二十年八月戦災による市街地の焼失、戦災復興都市計画事業の実施、昭和二十二年長谷地区、そして昭和二十七年には辺川及び迫地区の合併。

昭和三十二年上水道の完成、昭和四十七年には姶良郡西部消防組合が業務を開始し、消防力のアップがはかられました。

国際空港の開設・九州縦貫自動車道の建設等は我が町の産業経済の発展に多大な影響を及ぼしました。

昭和三十年代から昭和四十年代にかけて、我が国の経済は他の先進国にその例を見ない高度成長を遂げ、農村から都市への人口の流出をもたらし、深刻な「農村問題」と「都市問題」をひき起こしました。

これらの影響を我が町の人口の推移でみますと、昭和三十五年から昭和四十五年までは減少傾向にありましたが、昭和五十年から増加に転じ、町勢振興に明るいざしをみているところでございます。

町のあゆみを顧みるとき、産業経済、都市基盤の整備、教育文化福祉等各分野にわたり、町民の英知と努力により、更には先人のご加護と努力によって、今日の興隆を見たしだいであります。

しかしながら、今日の我が加治本町を取り巻く諸情勢は極めて、複雑多岐であります。

ご臨席のみなさまをはじめ、町民各位の御指導をいただきながら厳しい社会経済情勢や流動化する時代の変化に適切に対処し、町民福祉の向上、さらに本町が定める都市像「風光明媚な海と山、緑豊かな格調ある町並みと田園のなかで、市民生活が躍動する文化的な居住都市」の実現をめざす決意でございます。

申しおくれましたが、本日表彰されるみなさんの多年にわたる功績を賛え、衷心より敬意と感謝の意を表しますとともに、今後ますます健康に留意され職務にご精励くださるよう切望するものであります。

最後にこの輝かしい七十周年記念式典にあたり、ご光来を賜りました来賓のかたがたや町民各位が〝明日の加治木町〟を大きく躍進させるため、町政に対する一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、みなさまのご健康とご多幸を祈念して式辞といたします。

明日に向か

お祝いのことばを述べる下猶議長

町議会議長 あいさつ

本日ここに、加治木町制施行七十周年記念式典が各界からたくさんの来賓のご臨席の下、盛大に挙行されるに当たり、町議会を代表して一言ごあいさつ申し上げます。

まずもって、本町が七十年という県下最長の町制を続け、発展途上にありますことを二万二千有余の町民とともに心から喜びたいと思います。

顧みますと、明治四十五年六月一日、県下で最初の町制を施行し昭和二十二年八月一日溝辺村の長谷部落を合併、続いて二十七年十月十日には、溝辺村迫部落と山田村辺川を合併しました。

その後、今日まで社会経済各般にわたって、変転窮まりない日々でありましたが、新空港の開設、九州縦貫自動車道の開通とともに町勢は発展の方向に転じ、昭和五十二年、文化的な居住都市をめざした総合振興計画が策定され、翌五十三年からそれに基づく実施計画が推進されるに従って、着々とその成果を見つつありますことはまことに御同慶にたえないところであります。

しかしながら、今や世界経済はまさに憂慮すべき事態と相成り、我が国もその大きな影響下にありまして、国民生活はもとより、本町の行財政もまた苦難に満ちた運営を強いられております。

その中にあって、小学校の新設をはじめとして、新農業構造改善事業や区画整理事業の推進、流域下水道事業の計画策定、国道十号バイパスの着工促進等懸案事項を抱え、前途には幾多の多難も予想されます。

時あたかも、本町は町制施行七十周年を迎え、その記念事業を盛大に挙行することによりまして、町政と町民生活に一大活気を取り戻し、町勢発展への転期とすることは、この記念式典の大きな意義であろうかと思います。

本日の記念式典に当たり、栄えある表彰等をお受けになるかたがたはそれぞれ本町の地方自治や教育文化、社会福祉、産業経済発展のため、長年にわたり多大の御功績のあったかたがたでありまして、ここに深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

また、本町が今日のような将来に向けての期待に富む礎を築き得ましたことは、受彰者をはじめ関係各位の絶大な御支援と御協力によることはもちろんでありますが、同時に全町民の町を愛する精神の発露によるものであり、深く感謝申し上げるとともに今後ますます町勢発展のため、御協力くださるよう、せつにお願い申し上げます。

終わりになりましたが、本日の記念すべき式典に当たり、御多用の中を御臨席賜りました御来賓の皆様がたに対し、心からお礼を申し上げますとともに、栄えある表彰等を受けられたかたがたの御健康と御多幸を祈念申し上げ、ごあいさつといたします。

式典に出席した人たち

町勢発展に貢献

25人に感謝状　308人に表彰状

〔地方自治部門〕

感謝状

○歴代町長

石神安光、池直一、牧清澄、曽木豊二、法元定一郎、日高彦市、伊藤賢二、曽木隆輝（以上故人）、緒方明男

○助役

宅間徳二、岩澤藤夫（以上故人）

○収入役

伊地知新（故人）、岩元房友、

○歴代議長

佐藤徳三、永吉武治（故人）、林新太郎（故人）、福村厚行、宮内虎雄（故人）、中摩仙、犬童秀清前山新内（故人）、岩田一郎、土橋習一、山崎昭、下猶篤男

表彰状

○議会議員

杉田平一郎、宮脇助四郎、新名忠右衛門、市来原森右衛門、下楠薗忠太郎、佐藤浚太郎、岩澤市二、川原重志、郡山重行、田中泰蔵、美坂銀治、櫨山新藏、築瀬憲、立山恒雄、濱田隼人、中原茂、岩元武治、犬童傳、森木榮、郡山敬次神園國義（以上故人）、寺師秀雄高田精二、城松夫、稲田進、畠田輝保、川崎鉄雄、泉武麿、松元茂大吉操、東藤男、末廣一、徳永一男、中原久朗、田中高雄、大宮路篤男、美坂猪三郎

○選挙管理委員会委員

坂部久雄、増田庄之助（以上故人）大脇篤彦

○人権擁護相談員

日野良兼

産業経済部門の表彰者を代表して
表彰される横山清さん

○行政連絡員

宮永栄治、東脇三男、上別府豊、漆間宗夫、前田辰己、上園好光、村下久信、新原勇之助（故人）

○納税組合長

松下義彦（故人）、米良紀、野間武雄、大迫ノブ、中元カス子、荒武綾子

○合併期成会

米澤寅吉（代表）、冨永吉（代表）鹿島章（代表）

○消防団員

山元辰左衛門、立山経三、野元勇吉、是枝喜義、寺師幸男、是枝義輝、大迫繁雄、江口杉春（以上故人）、大迫平治、森山吉次、大迫豊藏、竹内親男、蓬原春香、郡山利春、鬼塚正直、櫨山大陸、原口常藏、松尾直、佐藤慶紀、中原久雄、松尾利光、桐原廣志、岩田辰二、福元義治、竹下泰藏、竹内敬一郎、安楽忠、大迫秀清、吉村虎男、立山経弘、今中清一郎、瀬戸口美信、吉村清視、入部英行、渡邊周一、中間洋右、犬童政武、小屋敷勝、中園茂、向江利治、檜物實、山元透、樋口一利、芋ケ迫正男江口廣光、有川恭雄、有馬清晴、澤崎菊男、藏満洋一、寺師榮、白濱隆雄、福崎藤男、池田三郎、藏満實、川村吉弘、郡山貢、楠元洋一、杉田秀清、花牟禮幸哉、福薗克美、前田重夫、東木武一、畠中博、吉村次男、三好之男、岩穴口治男、竹崎久實、東光義、東輝雄鹿屋春雄、榎谷貞則、山口正人、川床利雄、内村敏幸、久木田虎二福丸早苗、外園貢、上猶清高、大園譲、小宮路静哉、向江素、大宮路五男、宮内時雄、鹿島一人、上猶廣見、前田平八、玉利一男

○町職員（退職者）

白尾淳吉、佐藤平八郎、郡山甚太郎、松尾義則、平原好子、立山良忠、本中野勉、久重清身、是枝快弘（以上故人）、村橋久雄、徳永時夫、鈴木一男、稲留繁、吉薗清恒吉晃、神田貞豊、川原芳隆、遠矢不三江、野元茂、川野一男、日高辰夫、岩穴口操、東勲、福島綾子、川畑徳太郎、鑪野ミチ、有村宗吾、隈原明、末永豊、原田廣道長谷榮、梅木兼夫、中元邦夫、市来原盛五、堂森重義、犬童博子、上野嘉子、増田繁、宮田實、福元友藏、久保一雄、山元吉之助、堂免久子、児玉實憲

〔教育文化部門〕

○教育委員会委員

白尾國男（故人）、東明、岩崎偉

○学校教育

白尾彦助、佐多操、木佐木直哉、安楽久志、森田盛之助（以上故人）佐藤夕子、岡山秀樹、豊平正弘、森口敏子、町田實秀

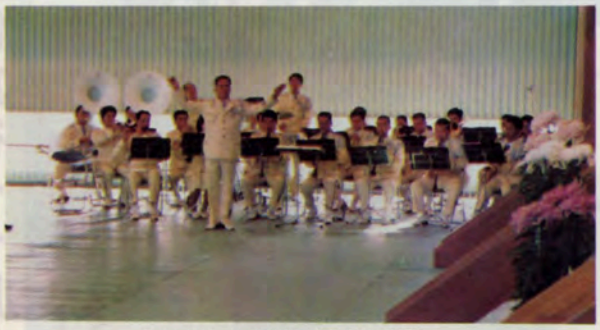
○社会教育

汰木清彦、牧清虎（以上故人）、新納教義、島津久英、川原軍次、川原光、向江敬三

○社会体育

渡邊愛之、寺師高雄（以上故人）小濱氏長、馬場忠彦、林正則、遠矢義一、大迫尚敏、大迫優子、⇦

ユーモラスな木田の馬踊り



式典をもり上げた県警音楽隊

勇壮な西別府の吉左右踊り太鼓踊り

町制70周年を機に復活した小山田の棒踊り

祝　　杯

吉田孝、佐藤薫、福薗昭男

○**郷土芸能**

反土地区太鼓踊保存会（代表恒森一美）木田地区太鼓踊保存会（代表武田義則）西別府地区吉左右踊太鼓踊保存会（代表森木末吉）、小山田地区太鼓踊保存会（代表薗田義則）、木田初午祭お田植祭保存会（代表岩崎郷二）

〔社会福祉部門〕

○**社会福祉**

川野宗兵衛、向江山助（以上故人）稲垣肇、鶴田義直、大山一男、四元鈴子、塚本直人、米森清人

○**民生委員**

日高ツル、猪俣定雄、平山ヒデ（以上故人）、末永英次、宮脇基利杉田平、池端ヒデ、石原孝、池畑守夫、吉田重義、坂元重子、後藤重春、外村豊二、田中實、前田幹子、榎谷重記

○**保健衛生**

岩崎昭夫（故人）、壱岐正治、池田成夫、大川吉春、玉利泰宏、大井千尋、桐原一夫、大迫勉、桑幡次郎、馬場健治、西清文、神田橋肇、上妻金彦、国分友晴、横山淳一、今村千秋、徳重精健、小杉恒右衛門、松崎貞雄、佐藤八郎、柚木一雄、高瀬キミ、西イ子、松金フヂ子、野元道子、永田フヂ

〔産業経済部門〕

○農業委員会委員

石原操、城正清（以上故人）、下楠園勲、松元秋男、榎田静雄、市来原静男、犬童己好、下猶末夫、宮路義春

○**産業経済振興**

大山綱男、林敏克、横山清、川井田洋三、坂口親志（故人）、新誠二、有馬篤、市来徹（故人）、穂満三郎、吉村誠助、岩澤光男、中島進、田中早苗、海老原敬三（故人）、川畑信三（故人）、森元兼吉（故人）、安楽藤一郎（故人）吉屋安光、河野正男、谷口幸雄

〔一般篤行〕

犬童英輔、原田耕夫、新川近義（以上故人）、尾上英藏

町制施行七十周年 記念行事

寒蘭展示会（交通安全会館）

式 典 会 場

▲地区対抗駅伝大会（塩入堤防）

文 化 祭（福祉センター）

▲らん・おもと展示会（性応寺）

町民体育祭（町営運動場）

義弘公奉賛式道（弓道）大会（精予神社）

ゲートボール大会（役場グランド）

義弘公奉賛武道（剣道）大会（加中屋内運動場）

▼町美術展　（福祉センター）

町木「くす」
町花「つつじ」

町民生活に潤いを与え、町民の郷土愛をはぐくむため、町制施行七十周年を記念して、文化的な居住都市を目ざして躍進する加治木町にふさわしい町木、町花を制定。町木にくす、町花につつじが決まりました。

くすは加治木町の地名の由来に関する神話伝説にあやかり、つつじはその姿、形、生育ぶりが加治木町民にもっともなじみ深いものとして選定されたものです。

町木、町花の制定にあたっては全町民を対象にアンケート調査を行い、その結果を基に町木等選定委員会で慎重に審議を重ね選定したものです。

町　木（くす）

町　花（つつじ）

七十年のあゆみ

明治四十五年
○町制施行
○高等女学校開校
○発電所完成　町内に点灯する

大正三年
第一次世界大戦　桜島大爆発

大正六年
○町立図書館設立
○小烏小学校を錦江小学校に改称

大正十五年
○青年学校設立
三州バス（鹿児島交通）運行開始

昭和六年
満洲事変起る
林田バス運行開始

昭和七年
日豊線開通

昭和十年
国鉄バス加治木―入来間開通

昭和十五年
南国バス運行開始

昭和十六年
太平洋戦争起る
小学校を国民学校と改称

昭和十九年
国立療養所（南九州病院）設立

昭和二十年
○戦災により市街地焼失

昭和二十一年
○戦災復興都市計画を実施、二十八年完成

昭和二十二年
○長谷（溝辺村）合併

昭和二十五年
朝鮮戦争起る

昭和二十六年
○前役場庁舎落成　ルース台風

昭和二十七年
○辺川（山田村）、迫（溝辺村）合併

昭和二十九年
国鉄バス、西別府嶽線運行開始

昭和三十二年
○上水道完成

昭和三十四年
○商工会館落成

昭和三十九年
東京オリンピック
姶良郡加治木合同庁舎できる

昭和四十年
○明治乳業㈱鹿児島工場操業開始

昭和四十二年
○南九州コカコーラボトリング㈱操業開始
○正村学園正心女子短大附属高校（加治木女子高校）設立

昭和四十三年
○加治木ガス事業開始

昭和四十五年
日本万国博
○町福祉センター落成

昭和四十六年
○鎮守小学校、永原小学校へ合併

昭和四十七年
○姶良郡西部消防組合業務開始

昭和四十八年
オイルショック
九州縦貫自動車道加治木―吉田間開通

昭和四十九年
○中野小学校、柁城小学校へ合併

昭和五十年
港湾拡張工事竣工

昭和五十一年
国道十号加治木バイパス完成
九州縦貫自動車道加治木溝辺間開通

昭和五十五年
モスクワオリンピック

昭和五十六年
○上水道中央管理棟落成
○新加治木中学校開校
○加治木団地の町名を「新生町」とする

昭和五十七年
○役場現庁舎へ移転